



management
経営
探訪

世界シェア6割を達成した 高い開発力と技術力を 新規分野に生かす

宮腰精機株式会社 代表取締役社長 宮腰巖氏

ビジネスフォーム印刷機で世界シェア6割を誇る株式会社ミヤコシ(千葉県習志野市)。その製造部門を担うのが秋田県内に2工場を持つ宮腰精機株式会社だ。主力製品分野の市場がピーク時の1割にまで落ち込む中で、先手先手の打開策を打ち出す宮腰巖社長に社業の現状を伺った。

フォーム印刷機でトップのシェア 製品の安定性で高い評価を受ける

当社は千葉県習志野市に本社をおくビジネスフォーム印刷機メーカーである株式会社ミヤコシの製造部門を担う事業所として、昭和56年に現大仙市太田町(旧仙北郡太田町)に国見工場が設立され、更に昭和60年、現大仙市土川(旧仙北郡西仙北町)に刈和野工場が設立されました。国見工場では設計開発、製品製造、アフターサービスまで、刈和野工場では宮腰グループ向けの部品製造を行っています。本社の創業当時は製造部門も首都圏にありましたが、人手の確保が困難になってきたため、労働力を求めて工場の移転先を探していた結果、秋田に辿り着きました。

自社開発したミヤコシブランドのフォーム印刷機は全世界で6割のシェアを誇っています。中国あたりでは当社製品をそっくりコピーしたような印刷機も出回っていますが、製品の安定

度とアフターサービスの徹底で、価格面では数段高い当社製品のほうを評価してくださる顧客も少なくありません。

培ってきた高い技術力を生かして 多角的に新分野の製品を開発製造

製造拠点を海外に移さないのかという声もありますが、当社のような開発型の企業では、自分たちの目の届くところに生産ラインをおいておくべきと考えています。当社の製品はオーダーメイドの色彩が強く、次々に仕様違いの製品を作っていくかなければなりません。そのために社内に45人の設計技術者を擁しているのですが、たとえば中国あたりに工場を持っていったら、このようなオーダーメイド的なモノづくりは出来ないだろうと思います。国内製造ではどうしても製品価格が高くなってしまいますが、当社の製品にはそれを上回るだけの高い商品力があると自負しています。

ただ、ビジネスフォーム印刷機の需要は、時代の変化や市場の飽和状態のためにピーク時の1割にまで落ち込んでいます。そのために、これまでに培ってきた技術と開発力を応用しながら、多角的に新規分野の製品づくりを進めています。現在は牛乳パック製造機や自動搬送機、小水力発電装置、商業施設で使われている万引き防止タグを進化させてそのままレジを通せる電子タグなど、現在開発途中のものも含めてきわめて多岐にわたっています。自社で独自に開発したものもありますが、お客様からの要請を受けて開発に取り組むものも少なくありません。ほとんどは一点ものに近い製品になりますが、一点もののモノづくりこそが当社のDNAだと考えています。

企業体力のあるうちの改革が肝要 雇用を守るためにも先手を打つ

産学連携として秋田県立大学との共同研究で豚肉胴部除骨装置というものも開発中です。食肉加工過程でこれまでは手作業で行っていた骨を取り除く工程を機械で自動的に行うことが出来ないかという研究です。これがビジネスになるかどうかは未知数ですが、食肉加工の現場で働いている人たちの負担の軽減につながればという思いで取り組んでいます。

平成24年度からは新建材「ラピパネル」の製造販売もスタートさせました。ラピリと呼ばれる火山礫を充填したパネルを住宅の壁面などに用

いることによって調湿、断熱、吸音、消臭などの機能を持たせた建材です。一見するとこれまでの当社の事業とはまったく畑違いのように思われますが、ラピリの充填には当社の自動機の技術が生かれますし、部材の接着にもホットメルトの技術をそのまま使えます。

これまでは「ミヤコシと言えばフォーム印刷機」と言われてきましたが、今後は市場の変化、時代の変化に敏感になって技術力を駆使した改革を続けていきたいと考えています。

宮腰精機株式会社 国見工場

〒019-1605
大仙市太田町国見字稲荷堂162
Tel.0187-88-1200
Fax.0187-88-2255
<http://www.miyakoshi.co.jp/>
E-mail kunimi.miya@miyakoshi.co.jp



国見工場内観。



- A. 主力製品のビジネスフォーム印刷機。
- B. 技術部門と製造部門で総勢45人の設計陣を擁している。
- C. シート状の無線アンテナを紙でサンドウィッチしてつくる電子タグは今後の普及が見込まれている。
- D. 開発中の豚肉胴部除骨装置。ロボット技術が生かされている。
- E. 新規事業として製造を開始した新建材「ラピパネル」の模型。
- F. 性能テスト中の牛乳パック製造機について説明する宮腰巖社長。

